

3 改善のポイント

POINT 1

- 作業工程を分析し工程表を作成しました。

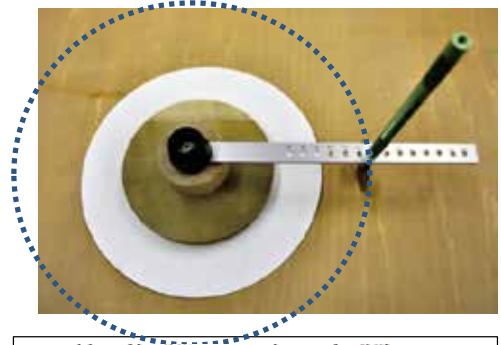
項目に身体機能面、認知面、感触面の視点を加え、肢体不自由のある生徒の実態に応じた作業工程表としました。

姿勢	身体機能	認知	感触
立位:	・道具を持つ・移動が得意、 ・両脇に大きなものを挟める。 ・布を定規で測る、手で石を叩く。	・必要の道具がわかる。 ・道具の順番、向き、量がわかり、工夫が得意。	・感覚や視覚で布の厚みなどがわかる。
座位:	・道具を扱える。	・割合に認める粘土の大きさがわかる。	・感覚や視覚で粘土の量がわかる。
座位:	・粘土でひもが作れる。 ・ひもをまきつけられる。	・ひもをまきつけられる。 ・ひもを断る、断る場所がわかる。	・粘土の厚さのひもがわかる。 ・粘土を断る、ひもがわかる。
座位:	・粘土でせんべいを作れる(甲、乙、丙、丁、戊、己、庚、辛、壬、癸)。	・せんべいの厚さを判断できる。 ・隙間を埋めようとする。	・粘土の厚さのひもがわかる。 ・感覚がわかる。

POINT 2

- 円形に切り抜けるように補助具を作成しました。
- 作業台を生徒の姿勢に合わせて変更しました。

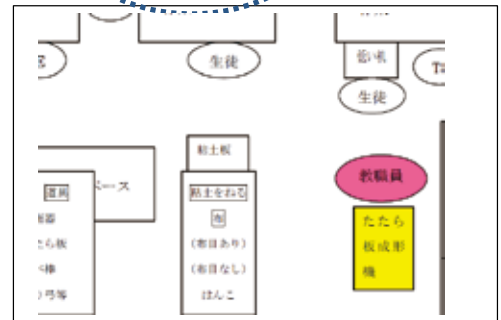
カッターが斜めになることがなくなり、ふちが滑らかなきれいな円が切れるようになりました。
なめす作業が不要になったので工程が簡単になり、分かりやすくなりました。



POINT 3

- どの生徒にとっても難しい工程がはっきりしたので、その工程には教員を配置することにしました。

「たたら生成」は、機器の操作が重いため生徒の活動とせず、その他の工程を分担するようにしました。



粘土を型に合わせて切り取るのは、苦手な工程と思っていましたが、一人で出来るようになりました。手を上手に使うためには、作業中の姿勢が大事であることが分かったので、やりにくい時は先生に相談しようと思います。



4 授業者がわかったこと

- 作業工程を分析し、改めて生徒の実態を把握すると、それまで教員が手伝っていた工程の中にも生徒が一人で出来ることがあるということを再認識しました。
- 難しい工程を「先生と一緒にやる」のではなく、生徒が一人で取り組めるように補助具や作業環境を工夫することが大切だと思いました。



生徒が分かりやすい指示の工夫

改善事例9

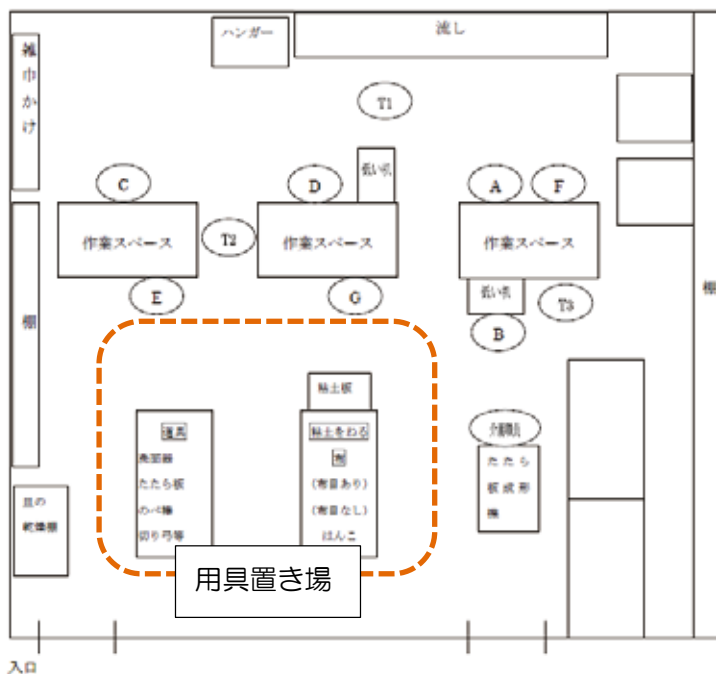
<陶芸>

1 授業改善の視点



【Iさん】

用具置き場からその日の作業で使用する物品を持ってきます。作業内容によって布も2種類あるので、どちらを使えばよいのかわかりにくいです。



- 物品の準備や、作業中も、生徒が「困っているな」という時にはその都度指示を出さなければいけません。
- いつも教員から声を掛けているため、生徒によっては次の指示が出るまで待っている様子が見られます。



2 専門家からのアドバイスと改善の方策

- その都度教員が指示を出すのではなく、生徒が自分で確認しながら準備が出来るような準備物リストを工夫しましょう。
- 名称や形状が似ている道具がありますので、用具の名称は正確に覚えられるようにしましょう。
- 基本とする手順を確認し、生徒一人一人に合わせた手順書を作成しましょう。その際、教員に報告するタイミングを記載し、生徒から声をかけることを意識付けるようにしましょう。

※教員の関わり方

- 仕上がりや、用具の説明の時に「ザラザラ」「しっかり」など曖昧な表現を避け、文字などの視覚情報等も使い、分かりやすい伝え方を工夫しましょう。

3 改善のポイント

POINT 1

- 準備物のリストを作成しました。

リストに沿って準備し、終わった所にマグネットを貼り、生徒が自分で確認できるようにしました。



- 見た目や触覚で判断しにくいものにはカゴの色を分けました。



自分で表示を確認して2種類の布からの確に選べるようにしました。

POINT 2

- 各工程の写真用いた手順書を作成しました。

生徒が自分で手順書を確認することで、工程の中でどの用具を使えばよいのかが分かるようにしました。

報告は、どのように声を掛けていいのかが迷うこともあるので、定型の言葉としました。



準備リストを見れば、何が必要なのかが分かるので自分で準備出来るようになりました。

手順通りに進め、自分から報告出来るようになってきました。



4 授業者がわかったこと

- 生徒が自分で見て確認出来るようにしたことで、その都度指示をしなくても自分で作業に取り組めるようになりました。
- 手順書に沿って作業を行うことで、工程に合った道具の利用が出来るようになりました。
- 生徒からの報告 (働きかけ) を増やすきっかけとなりました。

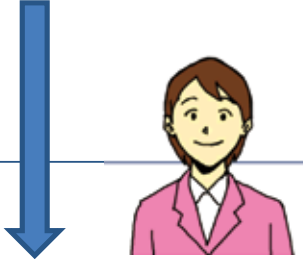


■ 作業学習の充実に向けて

「作業学習」で大切なポイント（学習指導要領）

将来の職業生活や社会自立に必要な事柄を総合的に学習し、生徒の働く意欲を培う。

- 活動に取り組む喜びや完成の達成感が味わえる。
- 生徒に応じた段階的な指導ができる。
- 利用価値が高く、生産から消費への流れが理解されやすい。



そのためには

☆ 生徒が「できる」状況をつくるのが大切です。
 ・「～ができない」ではなく、環境を整えることで、「～ができる」に変えていく。

どうすれば「できる」ようになるか。

- 1 一人ひとりの障害の状況(作業能力)に応じた**工程の工夫**
- 2 「やりにくい」状態を解消(改善)する**補助具の開発**
- 3 集中力を高める**環境作りの工夫**
- 4 **教員の関わり方**や立ち位置

4つの要件を視点として授業を振り返りましょう。

本報告書の事例より

Point

生徒が「やりにくい」と感じている場面に教員が気づくことが大切です。

4つの要件を視点とした授業改善